

P/MIRS MR-64  
#1044 copy!  
(D65 copy)

極  
祕

戰訓特報第二十號

本資料ハ某艦隊ヨリ送  
付シ來レル戰訓ナリ

# 大鳥島守備隊戰闘經過ノ概要並ニ教訓

昭和十九年二月二十三日

大本營陸軍部

- 次 目
- 第一 大鳥島守備隊戰闘經過ノ概要
  - 第二 敵戰闘要領ノ觀察
  - 第三 守備隊戰闘ノ教訓

0508

## 第一 大鳥島守備隊戦闘經過ノ概要

(昭和十八年  
十月六日、七日)

一、十月五日夜海軍情報ニ基キ守備隊ハ敵ノ來襲ニ備フ

二、十月六日

1. ○二二〇戦闘配置ニ就キ終ラントスルヤ○二三五首岬方向ヨリ進入セル三機編隊  
ノ敵機ハ尾翼ニ白燈ヲ點ジ高度約一〇〇米ニテ第四中隊及飛行隊兵舎附近ニ爆弾ヲ  
投下ス

2. ○二五〇敵機三方向ヨリ來襲ノ海軍報ニ基キ敵機ノ有效射程圏内ニ入ルヲ待チ對  
空射撃開始ヲ命ズ但シ彼我不明ノ飛行機ハ絶対ニ射撃セザル如クスルト共ニ好機ヲ  
捕捉シ少數彈薬ヲ以テ敵機擊墜ヲ爲ズ如ク命ズ

南海岸首岬附近ヨリ飛行場ヲ目標トセル敵機ニ對シテハ第四中隊二五耗及一三耗機  
銃、九二式重機及輕機等果敢ナル對空射撃ヲ開始シ其ノ二機ヲ先ヅ擊墜シ又一機ハ

0509

首岬東方海中ニ墜落スルヲ認ム

此ノ間加納見習士官以下七名ハ敵ノ熾烈ナル低空銃爆撃下二五耗機銃ヲ以テ勇戦奮闘的確ナル指揮ト確實ナル射撃トヲ以テ敵機ヲ射撃シ敵ニ大ナル損害ヲ與ヘタルモ敵機銃弾ノ直撃ヲ受クルト共ニ其ノ命中弾ニ依リ誘爆セル彈倉内彈薬ノ爲見習士官以下三名ハ戦死ヲ遂ゲ銃手一名ハ負傷ス

瓦軍曹以下五名九二式重機ヲ以テ終始勇敢ニ對空射撃ヲ實施セシガ敵ノ二〇〇疋直撃爆弾ニ依リ瓦軍曹戦死ヲ遂ゲ兵二名受傷ス

是ヨリ先〇四〇〇ヨリ約一五分間南方海面距岸約四〇〇〇米附近彼我空中戦ニ於テ敵一二機ノ擊墜ヲ見ル又〇四〇五海軍警備隊本部トノ電話線切斷セルモノノ如ク電話連絡全ク不通トナリタルヲ以テ海軍水警科ヲ中繼視號通信ニ依リ辛ウジテ連絡ス又飛行場戰闘機格納庫附近ヨリ五時砲臺ヲ目標トセル敵機ニ對シテハ第二中隊ノ、海軍南砲臺、海軍水警科、陸軍醫務室附近ヲ目標トセル敵機ニ對シテハ第三中隊ノ、足島砲臺ヲ目標トセル敵機ニ對シテハ第一中隊ノ一二耗機銃、九二式重機及

輕機等夫々果敢ナル對空射擊ヲ開始シ其ノ三機ヲ外海ニ擊墜シ、足島上空ニ於テハ三機ニ損害（煙ヲ吐カシム）ヲ與ヘ將兵ノ志氣大イニ振フ

3、間モナク敵機ハ一時退避セルヲ以テ朝食ハ携帶口糧乙ヲ使用シ晝食以後ハ飯盒炊事ヲ實施シ得ル如ク壕内ニ準備スペキヲ命ズルト共ニ至嚴ナル警戒ヲ續行シ敵ノ再来襲ニ備ヘシム

此ノ間敵ノ銃爆撃ニヨリ數箇所ニ於テ我ガ砲彈誘爆ノ被害アリ

4、〇八三八飛行場方向ニ爆音ヲ聽ク、間モナク敵機七機來襲シ飛行場ニ對シ熾烈ナル銃爆撃ヲ開始セルモ敵ハ飛行場、海軍警備隊本部附近ヲ目標トセルモノノ如ク南海岸陸軍地區ニ對シテハ時々數機ヲ以テ銃撃ヲ實施スルニ過ギズ此ノ間大ナル戰果ナシ

5、〇九三〇、一六〇度方向水平線上ニ敵艦艇ヲ認ム同時海軍水警科ヨリ敵艦ハ巡洋艦三、驅逐艦三、計六隻ナリトノ通報アリ

守備隊長ハ五時砲臺ニ對シ有效射程内ニ入ラバ射擊ヲ開始スペキヲ命ズルト共ニ

(海軍司令直率ナルモ電話不通ノ爲)各隊ヲシテ海面ノ警戒特ニ敵ノ上陸企圖ニ對シ  
嚴ニ警戒セシム

敵ハ砲撃ヲ開始シ先づ首岬砲臺及飛行場ニ對シ其ノ火力ヲ集中シ其ノ精度良好ニシ  
テ熾烈ヲ極ム次テ距岸六、〇〇〇—一〇、〇〇〇米附近ヲ南海岸ニ沿ヒ西行シツツ航  
空隊指揮所、七一二番地區陣地、五吋砲臺、海軍南砲臺、海軍水警科附近ニ火力ヲ  
轉移シツツ約一時間ニ亘リ砲撃ヲ續行シタル後一時射撃ヲ中止シ間モナク視界ヲ去  
ルヤ敵機再び來襲主トシテ飛行場及海軍警備隊本部、海軍水警科地區ニ對シ銃爆撃  
ヲ開始ス

此ノ間五吋砲ハ敵ノ熾烈ナル砲撃及敵機ノ銃撃ノ下敢然トシテ敵艦艇ニ對シ砲撃ヲ  
開始シ二隻ニ對シ三發ノ命中弾ヲ得タルヲ確認セルモ忽チニシテ敵艦砲集中射撃ノ  
目標トナリ左砲臺ハ敵ノ直撃弾ヲ蒙リ砲手三名戦死シ分隊長以下二名負傷ス  
同時左隣接陣地タル速射砲一分隊ハ敵艦砲ノ直撃弾ヲ受ケ砲ト共ニ埋没シ分隊長以  
下一〇名戦死シ一名負傷ス

6、一〇五五頃敵艦隊ハ再び砲撃ヲ開始シ逐次東方ニ移動シツツ約一時間ニ亘リ熾烈ナル砲撃ヲ續行シタル後一一五〇頃射撃ヲ中止シ一三四六首岬東方水平線上全ク視界ヲ去ル

一四一六命令ヲ下達シ夜間敵ノ來襲ニ備ヘシムルド共ニ損耗兵器、弾薬ノ補給、通信線ノ補修ヲ命ジ且主計將校ヲシテ合同炊事ヲ實施各隊ニ分配セシム

7、一五四七我方艦爆ニ巧妙ニ追尾セル敵大型機六機足島方向ヨリ飛行場上空ニ來襲  
爆撃後一六二一退避ス

8、本夜ノ合言葉「横須賀、鎌倉」ト定メラレ部隊ハ特ニ後半夜ノ警戒ヲ至嚴ナラシム  
明未明時ノ戦闘ヲ準備セシム

9、此ノ日ニ於ケル對空火器ノ配置附圖第一ノ如ク其ノ戰果ハ敵機擊墜確實五、不確  
實三、計八機ナリ

三、十月七日

1、〇一〇〇守備隊長ハ敵機ノ來襲ヲ豫想シ直チニ豫々分配シアリシ朝食ヲ喫シ戰闘

0513

準備ヲ爲サシム

「對空戰闘配置ニ就キ且嚴重ナル燈火管制ヲ行ヘ」トノ海軍司令ノ電話命令ヲ受領ス

2、〇三二五、〇度方向ニ敵機ノ爆音ヲ聞ク同時對空戰闘ヲ令セラル

3、〇三三〇友軍戰闘機飛翔ノ有無ヲ海軍警備隊本部ニ訊シタルニ「一機モ飛行シアラズ」トノ回答アリシヲ以テ來襲機ハ悉ク敵機ナルコト判明シ將兵ノ志氣愈々旺盛ナルモノアリ

4、〇三三四敵艦爆、飛行場ニ爆擊ヲ開始シ又首岬ヨリ七一一地區ニ對シ約二〇機高度一〇〇一六〇〇米ニテ銃爆擊ヲ反復スルヲ認ム

各隊對空火器ハ昨六日ノ體驗ニヨリ必中ヲ期シ沈著、剛膽、果敢ナル射擊ヲ實施シ〇四四五ヨリ〇五〇八ノ間六一一地區附近ニ於テ二機ヲ擊墜、足島地區ニ於テ二機ヲ噴煙セシム

5、〇五四〇頃銃爆擊ハ閑散トナリ間モナク退避セルモノノ如ク上空ニ敵機影ヲ認メズ其ノ間ニ損害兵器及彈藥ノ補給ヲ命ズ

6、○七一〇、一七〇度方向ニ敵潛水艦浮上セルモ次第ニ遠ザカル

7、守備隊長ハ爾後ノ戰闘ヲ考慮シ對空射擊ニ於ケル彈藥ノ節用ヲ命ズ

8、○八一五、二七〇度方向水平線上ニ艦船ノ檣ラシキモノヲ發見セル旨第一中隊ヨ

リ報告アリ同時頃八〇度方向ヨリ戰闘機(グラマン)三機來襲ス

○九三八、〇度方向ヨリ敵機一四機、○九〇七戰闘機一〇機來襲ス

一〇〇一、一九〇度方向ヨリ約二〇機、三〇〇度方向ヨリ約三〇機、〇度方向ヨリ一

七機來襲全島ニ對シ熾烈ナル銃爆擊ヲ反復ス

此ノ間各隊對空射擊部隊ハ熾烈ナル銃爆擊下果敢ニ射擊ヲ開始シ○九一八足島上空ニ於テ三機(内不確實一機)○九二四足島三〇〇度方向上空ニ於テ一機擊墜(搭乗員ハ落下傘降下後「ゴム」浮舟ニテ漂流)○九四〇、六一一番地區外海ニ擊墜沒入二機、一〇一三、六一二番地區内海寄二機、一〇二五、六一二番地區上空ニテ一機擊墜(空中分解)ノ戰果ヲ收メタルモ我方損害ハ極メテ輕微ニシテ此ノ間ニ於ケル將兵ノ戦死傷ナシ

本日ニ於ケル戰果、擊墜確實一〇機、不確實三機ナリ

9、爾後敵潛水艦一〇五〇、二六〇度海面及一一五〇、二五〇度方向海面ニ浮上（戰果ノ確認、不時著機搭乗員ノ搜索救助ニ任ゼシモノト推定ス）セル外敵艦隊出現セズ、航空機亦來襲セズ

守備隊長ハ此ノ間通信線ノ補修、兵器彈薬ノ補給ヲ實施セシムルト共ニ各隊ヲシテ爾後ノ戰闘ヲ準備セシム

10、一五四五、今夜水上艦艇及敵機動部隊協同攻撃、之ト同時ニ攻略部隊來襲ノ算極メテ大ナリ各員死力ヲ盡クシ敢闘之ヲ殲滅スベシ」トノ海軍司令ノ命令ヲ受ケタルヲ以テ連絡將校ヲ派遣シ細部ノ狀況ヲ聽取セシムルト共ニ守備隊命令ヲ下達シ防備地區擔任中隊ヲシテ夫々對上陸戰闘ヲ準備セシムルト共ニ速射砲、野砲中隊ヲ既設陣地ニ進入セシメ且戰車一小隊ヲ内海ニ面シタル陣地ニ配備シ豫想ズル敵ノ空挺部隊及内海進入部隊ニ對シ内海方面ノ守備ニ任ゼシム

各隊ハ至嚴ナル警戒ヲ以テ敵上陸部隊邀撃ノ準備ヲ完了シ志氣愈々旺盛、待機セル

モ遂ニ敵ノ來襲ナク十月八日天明トナル

四、本戦闘ニ於ケル敵砲爆撃ノ被弾狀況附圖第二ノ如シ

## 第二 戰闘要領ノ觀察

一、第一日(十月六日)ノ目的

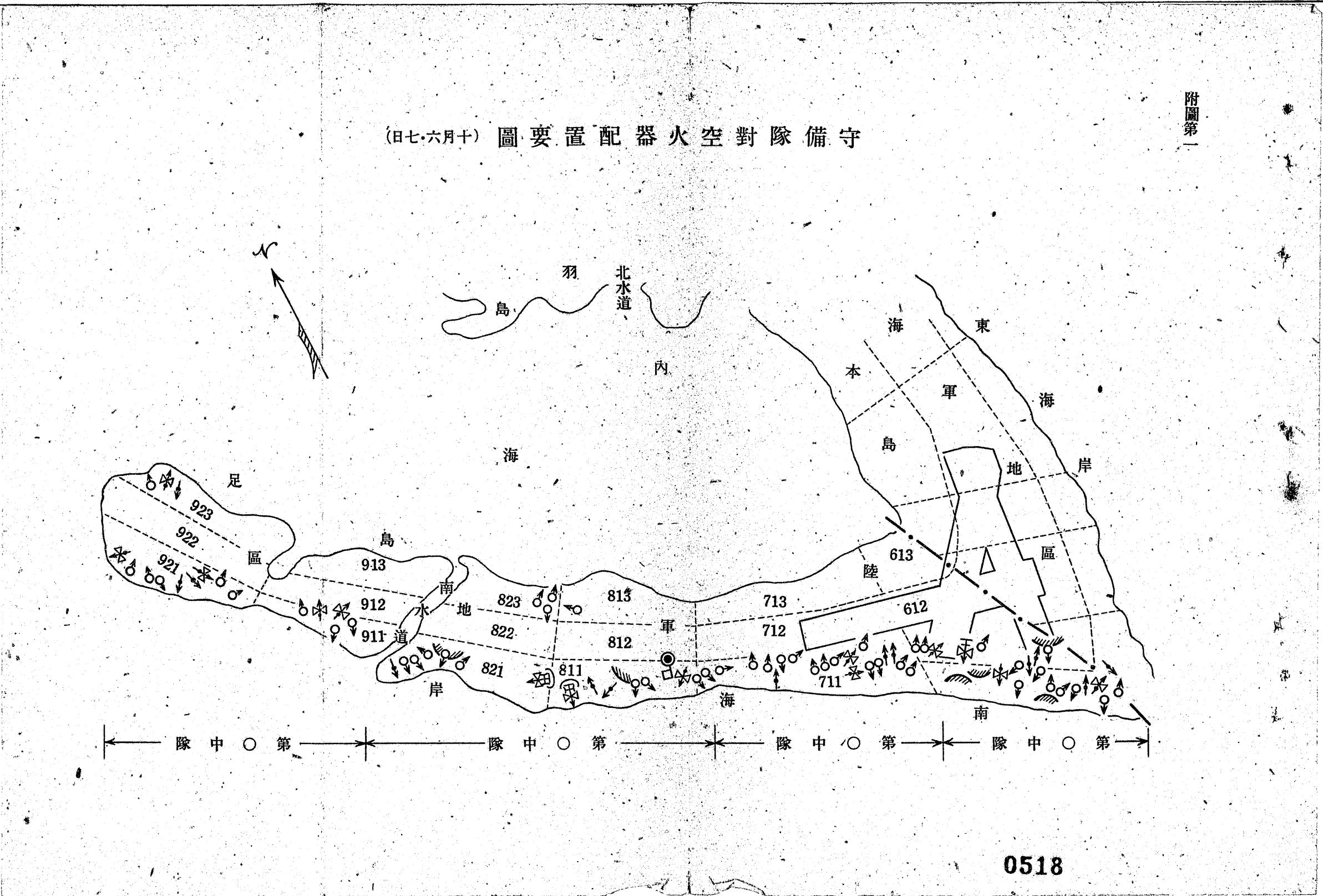
敵ハ黎明時中攻發進迄ニ攻撃ヲ開始シ先づ全力ヲ以テ我ガ飛行機ヲ破壊ス(第一日ハ

戰闘機多ク一二〇乃至一五〇機、艦爆ハ五〇乃至六〇ニシテ其ノ比ハ二對一ナリ)  
破壊略々完了セシ時艦砲射擊ニ移リ先づ我ガ海岸砲及飛行場ヲ制壓シ次ニ建築物ニ  
移ル、目標物以外ノ所ノ射擊ハ唯威赫程度ニシテ砲撃ノ中心ハ首岬飛行隊兵舎、飛行  
隊指揮所、五吋砲、海軍本部、背岬十五糺砲陣地附近ニシテ精度ハ良好ナリ、大  
型機六機ハ艦砲射撃ノ成果ヲ偵察ニ來レルモノト判斷ス、故ニ第一日ノ重點ハ艦砲射  
撃ニアリ爆撃ハ之ヲ容易ナラシムル爲ノモノト判斷ス

二、第二日(十月七日)ノ目的

0517

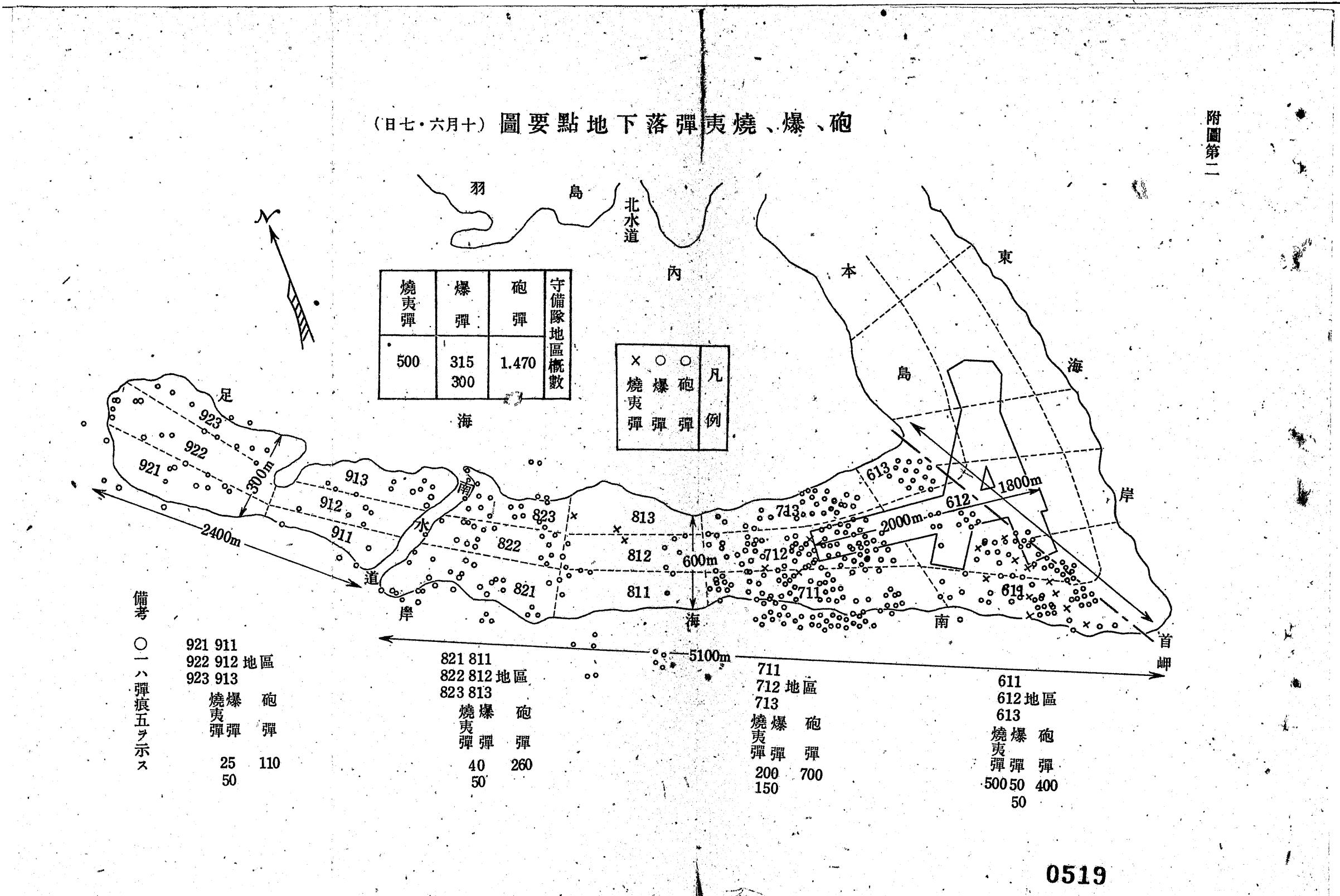
(日七・六月十) 圖要置配器火空對隊備守



0518

附圖第二

(日七・六月十) 圖要點地下落彈夷燒、爆、砲



爆撃ノミニシテ艦爆多ク約一五〇機程度ニシテ戦闘機ハ七〇機其ノ比ハ二對一ナリ  
爆撃目標ハ術工物及對空火器ニシテ補助「タンク」ヲ使用セシ戦闘機アリタル故前日ヨ  
リ相當遠クヨリ術工物ヲ目的トシテノ爆撃ト判斷ス其ノ中権ハ首岬飛行場地區、海軍  
本部地區、羽島地區、波止場地區ニ集中セリ

浮上潛水艦ハ戰果ノ確認ト思考ス

### 三、使用機數及兵器

第一日 第二日 使用弾

艦爆 六〇乃至 七〇 一五〇乃至一七〇

合計 二〇〇〇延一五〇一二〇〇箇入ルレバヲ  
一〇〇延三〇〇一四〇〇箇約二倍トナラン

大型 六

艦載機

一乃至 二〇(艦砲射擊中彈著觀測ス) 百延瞬發弾

艦船 南海岸 巡五、驅一

(八時砲一、二〇〇〇發)  
(不明ナルモ陸軍地區ノ約三分ノ二ハ被弾  
アリ)

東海岸 巡四、驅四

0520

其ノ他當初飛行場附近ニ燒夷彈落下（五〇〇箇）炎上ニ依リ地上機發見ニ勉メ又銃擊回數ハ全部ヲ通ジ六〇〇回以上ト思考ス（艦爆ハ一一回、戦闘機ハ三回位反復ス）

#### 四、爆、銃擊飛行機ノ攻撃要領

一六乃至一八機ノ編隊群、二一三編隊ヲ以テ（四〇—五〇機）島ノ上空ヲ旋回シ一群ヅツ逐次突入シ來ル、斯クノ如キ群四五十五攻撃終レバ一時中止ス（四五群ヲ以テ一空母ノ搭載ト思考ス）次デ又他ノ群來リ第一回ハ四回反復、第二回ハ五回反復ス（故ニ空母二一三ト思考ス）

一群ノ攻撃要領ハ先ヅ艦爆ガ急旋回ニ降下シ目標高一、〇〇〇米位ヨリ方向ニ入り地上火器ニ對シ急降下爆撃ヲ爲シ三〇〇米附近ニテ爆弾投下地上火器ノ制壓ヲ圖ル、次ニ戰闘機モ一、五〇〇米附近ニテ方向ニ入り遠七〇〇、近六〇〇ノ距離ニテ飛行機及対空火器ニ銃擊シ來ル次デ爆弾無キ艦爆及戰闘機ノ銃擊ヲナシ退避ス、而シテ二日目海軍本部ヲ攻撃セシ雷擊機ハ十二機次々ト爆撃シ直チニ退避セシコトモアリ、爆撃精神ハ良好ナラズ、又爆撃速度緩ナルヲ以テ容易ニ待避シ得（一機搭載量ハ三〇〇班ナビ

バ一箇、二〇〇粍ナレバ二箇、一〇〇粍ナレバ三箇、五〇粍ナレバ八一一〇箇)銃撃  
ハ曳光及飛行機發射時煙ニ依リ判斷セバ容易ニ待避シ得(曳光、徹甲、燒夷ノ連續ニ  
シテ一機裝備一三耗四銃、一回發射彈一機三〇一四〇發程度ナリ)精度比較的良好、  
中攻等ハ一回ノ銃撃ニヨリ炎上セシモノノ如シ、搭乗員ハ艦爆二名(尾翼ヨリ射擊シ  
來ルコトアリ)、「グラマン」一名ニシテ擊墜「グラマン」ノ乘員ハ二〇歳前後ノ若キ學生  
ノ如キナリ、勇敢ニシテ反復攻擊シ來ル

##### 五、艦砲射撃ノ要領

近接竝ニ退避ハ島ニ直角ニ來リ速力大(四〇節?)ナルモ射撃ハ島ト平行ニ行進シ速力  
二〇節内外ナリ、爆撃終期首岬ニ初弾來ルモ最初ヨリ精度良好、巡洋艦ハ兩側八時二  
門、中央五時四門ヲ有シ八時ノミト五時ノミ射撃スル時ト六門同時ニ射撃スル時トア  
リ

各艦ノ射撃速度ハ平均二〇秒ニ一回ナリ而シテ南海岸ニ來レル巡洋艦五隻ハ常ニ射撃  
スルモ驅逐艦二隻ハ常ニ警戒シアリテ射撃セズ又射距離ハ最初一萬位ニテ射撃開始爾

後七千附近迄近迫セリ

南海岸反復砲撃ト略々同時頃ヨリ東海岸海軍地區ニ別戦隊砲撃ヲ開始シ終了後兩艦隊首岬一〇〇度ノ方向ニ退避セリ

射撃要領ハ最初中央ニ黃色弾ヲ混合セル試射弾ヲ以テ夾又シ次デ黒龍様（破片弾ナラシカ）ノ弾著ヲ空中（高度約一〇〇—一五〇）ニ示シ集中シ來ル、艦橋ヨリノ觀測ナルヲ以テ精度極メテ良好ナルモ弾丸效力小ニシテ掩蔽部ニ入レバ被害ナシ又落角小ナル關係カ不發弾比較的多シ（弾底信管ノ衝擊力ニモ依ル）

六、以上ハ今次戰闘ニ於ケル敵ノ攻擊方法ナルモ敵眞ニ上陸ヲ企圖セバ更ニ今次ノ三十四倍ノ強力ナル爆撃及砲撃ヲ爲スペク其ノ爆撃及砲撃目標ハ各海岸陣地ニ指向スルモノト思考ス

### 第三 守備隊戰闘ノ教訓

一、敵銃爆撃及艦砲射撃ノ效果並ニ我ガ將來ノ對策

0523

## 1、被害ノ程度

敵機動部隊ノ砲爆撃ニ依ル陣地ノ被害ハ極メテ少ク一兵ニ至ル迄敵ノ砲爆撃恐ルルニ足ラズトノ確信ヲ得極メテ有效ナル有形無形上ノ實踐的訓練ヲ體得シタリ但シ將來上陸企圖ヲ有スル敵ニ對シテハ其ノ銃砲爆撃ノ今次ニ比シ勝ルコト數倍ナルベキヲ覺悟スルト共ニ工事、偽裝、分散ヲ完全ニシ砲爆撃ノ被害ヲ更ニ局限スルノ要切ナルモノアリ

陸軍側今般ノ人員被害ノ大部ハ惡シト知リツツ改善ニ未ダ着手シ得ザリシ中隊アリシニ因ルモノ多ク對空戰闘ニ依リ直接損害ヲ受ケタルハ半數ニモ足ラズ

## 2、對空射擊

低空銃擊スル敵機ニ對スル重機、輕機ノ射擊ハ極メテ有效ナルモ彈藥ノ節用ニ關シ特別ノ注意ト嚴重ナル監督トヲ要ス

小銃實包ニ依ル對空射擊ハ守兵志氣ノ發揚ニ有效ナリシノミナラズ將來ノ爲良訓練トナヒルハ第二日ノ戰果ニ於テ明證セル所ナリ

3、地上建築物ハ銃爆撃ニ依リ其ノ大半ヲ大中破セリ

4、彈薬庫及糧食庫ハ分散耐弾施設トシ上陸阻止戦闘ノ爲十分ナル格納保有ニ堪ヘシ  
ムルコトハ離島防禦施設ノ重要ナル要件ナリ

第一次築城ニ於ケル陸軍側施設トシテハ耐弾式彈薬庫（山砲弾五〇〇發收容程度）一  
ノミニシテ他ハ兵力ヲ以テ構築セル木造覆工式輕掩蓋ヲ有スル彈薬庫ニ過ギズ、殊  
ニ野砲彈薬ノ大部ハ構築材料ト作業力不足ノ爲野積ニシテ糧食庫ハ悉ク地上舊倉庫  
ヲ臨時充當セラレアリシヲ以テ相當大ナル被害ヲ蒙ルニ至レリ

## 二、離島防備兵力並ニ裝備ニ就テ

1、海軍重砲ノ敵艦艇ニ對スル射擊威力ニ就テ

陸上各砲臺ハ射擊ニ依リ却ツテ敵艦隊ノ精確ナル集中射擊ヲ受ケ（一對三〇發ノ比  
ニテ）忽チニシテ各個ニ制壓セラレ附近ノ輕砲陣地亦傍杖ヲ喰フニ至リ志氣上ニ惡  
影響ヲ及セリ

陸上ノ各砲臺ニ對シ海軍司令一令ノ下集中射擊ヲ企圖スト雖モ陸上通信施設ハ敵ノ

0525

砲爆撃ニ依リ不通トナルヲ免レザルヲ以テ軍艦内ノ如ク行ハレ難キヲ通常トスベシ  
陸軍トシテハ海軍砲ニ依存スルヨドナク自力輕砲以下ヲ有利ニ使用シ千米以内ノ水  
上及水際ニ敵撃滅ヲ企圖ズルト共ニ尙上陸セル敵ニ對シテモ観強ナル戰闘ヲ繼續シ

最後迄勝利ニ邁進スルヲ要ス

2、敵艦艇ニ對スル海軍重砲威力ヲ補フ爲ニハ

イ、潛水艦ヲ以テスル攻擊

離島防禦ノ爲ニハ島内ニ速カニ基地ヲ新設シ一隻ニテモ之ヲ利用シ得ル如クスル  
ノ要アリ

ロ、魚雷艇ニ依ル攻擊

本戦鬪間敵ノ爲過早ニ損害ヲ蒙リタルハ遺憾ナリ

ハ、海岸「リーフ」線ニ魚雷發射管ヲ裝置シ近迫（今次最モ近キハ六、〇〇〇米）スル  
敵艦艇ニ不意ノ魚雷攻擊ヲ爲ス時ハ極メテ有利ナリト思考ス

3、上陸阻止戰闘ニ於ケル火力ノ主體ハ重輕機及輕砲ニアリ

### 三、戦闘指揮ニ就テ

- 1、海軍ノ陸戰ニ於ケル戦闘指揮ハ軍艦内ニ於ケルガ如ク齊整タラズ各防備擔任地區  
指揮官ノ獨斷機宜ニ適スル指揮ヲ要スルコト大ナルニ著意スルヲ要ス
- 2、海軍司令直率部隊ニ對スル命令ト守備隊長ニ對スル命令トヲ區別傳達スルヲ要ス
- 3、作戰間ノ狀況、通報ハ戦闘指揮上必要ニ拘ラズ本戦闘間極メテ少カリキ敵輸送船團ノ有無、友軍飛行機ノ飛翔ノ有無ノ如キ一般狀況ハ特ニ緊要ナリ

### 四、對空射擊

- 1、對空射擊ニ方リテハ亂射ヲ戒メ一回ノ發射彈數ヲ少ク、銃數ヲ多クシ爆(銃)擊進入時ヨリ爆弾投下(銃擊終了)ノ間ニ火力ヲ集中セバ效果大ナリ又今次低空銃爆擊(高度一〇〇米内外)セル敵機ノ時速ハ六〇〇—七〇〇杆ナリシヲ以テ未來修正量ハ思切リ大ナラシムルヲ有效トセリ
- 2、對空火器ノ位置ハ著明ナル目標ヨリ三〇〇—五〇〇米離隔シテ配置スルヲ可トス
- 3、對空陣地ハ深サ一・五米程度トシ一般地上目標ニ對スル陣地ト別箇ニ數箇構築シ

0527

敵銃爆撃ノ各回次毎ニ移動シ射撃スルヲ可トス

4、敵機ハ一目標(対空火器)ニ對シ同時ニ數方向ヨリ攻撃スルヲ以テ射撃間彈薬手ヲシテ他ノ方向ニ對シ監視セシムルヲ要ス

5、對空射撃用輕機ノ托架ヲ必要トス、射手、彈薬手二人協同シテ行フ對空射撃ハ敵ノ低空銃爆撃ニ依リ損害ヲ受ケ易シ

6、一隊急降下攻撃スル際他ノ二、三隊ハ常ニ三、四千米ノ上空ヲ旋回シツツ待機スルヲ以テ高射砲ハ上空旋回中ノ敵機ヲ射撃シ重輕機ヲ以テ急降下機ヲ射撃スルヲ可ト

ス

## 五、通 信

1、通信施設ノ完備ハ離島防禦ノ爲特ニ緊要ナリ熾烈ナル敵機ノ銃爆撃及敵ノ艦砲射撃下ニ於テ戰鬪指揮ヲ的確ナラシムル爲ニハ有、無線通信施設ノ防護及緊要ノ度ニ應ジ經路ヲ異ニセル數線ヲ以テ通信網ヲ構成シ副通信ヲ準備スルコト必須ノ要件ナリ

リ

一九

0528

今次爆撃ノ爲深サ一・二〇一一・〇〇ノ埋沒線ニ在リテモ切斷セラレタリ

2、戦闘間中隊ニ於ケル電話當番ノ通信用語的確ナラザル爲錯誤ヲ生ジタル例少力  
ラズ

野砲中隊ノ過早ニ射撃開始セ

速射砲分隊ニ對スル速射砲中隊長ノ命令ヲ  
同一電話回路ニ在ル第二中隊  
隊命令ト誤信セシガ如キ之ナリ

## 六、築城

近代戦ニ於ケル防禦陣地ニハ築城ス  
掩蔽部ノ外、敵ノ急襲ニ備ヘ且兵員ヲ休  
養シ長期持久セシムル爲概不分離  
瞬發信管附榴弾ニ耐フル如ク設壁  
ヲ構築シ置クヲ可トス

## 七、給水

雨水ト淨溜水ノ外飲料水ヲ得ラ  
高防禦ニ於テハ各支點毎ニ相當量ノ飲料水ヲ  
貯水シ置クヲ要ス

## 八、其他

0529